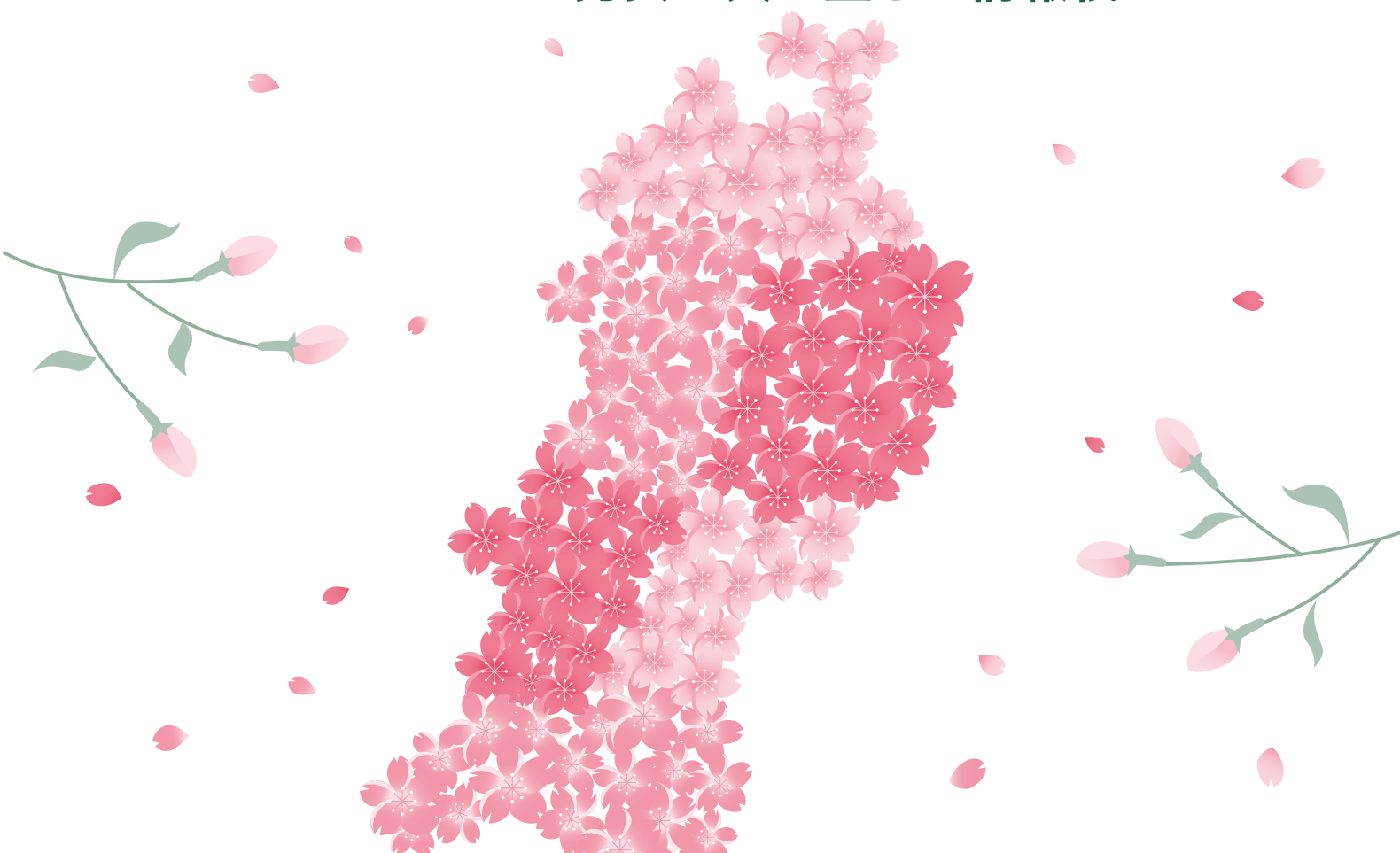




地球

2013年 春号

男女が共に生きる情報紙 VOL.96



Building back the better community!

災害の前にあった社会よりも、良い社会をめざして復興しよう

2市1町(藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町)広域連携事業「男女共同参画の総論及び男女共同参画の視点をもった防災」講演内容より

もくじ

- 2市1町(藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町)広域連携事業
「男女共同参画の総論及び男女共同参画の視点をもった防災」講演を聴いて
講師：立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科 教授 萩原 なつ子(はぎわら なつこ)氏
- 家族の絆を見つめ直す ～映画「東京家族」を観て～
- 探検! ふじさわ「^{ママズ}mama's ^{カフェ}cafe ^{ジョイ}joy」の巻
- 編集後記
- インフォメーション

人権・男女共同参画

啓発セミナー

「男女共同参画の総論及び 男女共同参画の視点をも

2013年1月15日、市町職員向けの研修会が開催されました。
その内容を聴いて、まとめてみました。

講演を聞いて

萩原氏の話は、自身の体験を踏まえたもので、わかりやすいものであった。男女平等ということに対する意識の改革が重要であるということがよくわかった。

男女の格差が先進国中最低水準の日本

萩原氏は、講演の中で触れていたが、昨年秋に発表された「世界経済フォーラム」(スイスのジュネーブに本部を置く非営利財団)の『2012年版男女格差報告』によると、調査対象国135か国中、日本は、101位だった。先進国中最低水準であった。この報告は、経済、教育、政治、健康の面から女性の地位を分析したものである。日本は、女性議員が少なく、企業幹部も男性に占められているという点を改善して行かなければならない。この報告の上位は、北欧諸国が多く、アメリカは22位になっている。男女平等面でも、日本は、何とか先進国中最低水準を脱出するような方向で、社会を改革して行かなければならないだろう。特に、人々の意識を改革することが重要なようだ。

講演の中で、萩原氏は「いまだに第1子の出産を機に6、7割の女性が退職する」と言っていた。これでは、女性管理職の割合は上がらない。

そこでは、育児支援の充実がまず重要である。そして、管理職に成り得る女性を増やさなければならない。

また、登用における男女平等ということもある。登用の機会、チャンスすらないという現状もある。

こうした男女の格差の問題を解決して行くには、意識の改革が重要である。また、職場でのちょっとした工夫も重要ではないかと思った。

(大山 記)

東日本大震災の経験を 無駄にしないで

震災直後、仙台の友人からご遺体を包むタオルが欲しいと講師 萩原氏のもとに支援を申し入れる1本の電話があったのが、萩原氏が個人的に被災地支援に関わるきっかけだったという。すぐに、日頃のネットワークと宮城県環境生活部次長だった経験を生かし、被災した地域と、支援団体を結ぶパイプ役を引き受け、支援活動を開始、そんな活動を通じて男女共同参画の

視点から、今後の防災についての提言や実際に支援活動を通して気づいた問題点についてうかがった。

問題点1

援助を受け入れる力が足りなかった

災害が起こった後、国際的な援助団体、また国内の優秀なNGO等の支援、援助の申し出がたくさん寄せられた。被災自治体側の要請受け入れ体制ができていないため、震災直後の支援活動がスムーズにできなかった事例もある。受け入れる側の体制を整える必要があった。

災害が起こってからではこの体制は整えるのが難しい。自治体のみならず住民も平時から受援力を高める必要がある。

問題点2

高齢者の避難について

震災時間が昼間だったこともあり、高齢者が高齢者を助けなければならない状況だった。一旦避難してから高齢者を救助に戻って津波に巻き込まれたケースが多発。平時から救助体制を作っておく必要がある。



問題点3

避難所のリーダーが男性だった

避難所設営時に避難所の運営のリーダーが男性だったところが多かったため、女性に対する配慮が欠けた状況が発生し、混乱した。最初から女性の意見を取り入れるべきだった。

問題点4

女性専用ブース(授乳室)の設置

避難所はプライバシーがない状態。この状況下で、衣服の着替え等で女性専用ブース等を設営する必要があると思う。この他にも男女のトイレの位置、風呂の場所、順番、脱衣所などの問題があった。



問題点5

震災が起こったことにより、慣習として行われてきた固定的役割が強化される傾向にあった。

食事の支度、介護、育児等、ケア労働に時間をとられ、再就職活動、復興の話し合いに参画できない。

〈講師プロフィール〉

山梨県笛吹市生まれ。明治学院大学及びお茶の水女子大学大学院修了。
トヨタ財団アソシエイト・プログラムオフィサー、宮城県環境生活部次長、武蔵工業大学助教授などを経て、現在は立教大学社会学部教授・同大学院21世紀社会デザイン研究科教授。日本NPOセンター常務理事。
主要な研究テーマは、環境と開発とジェンダーに関する研究、NPOと行政、企業の協働に関する研究。
学外の社会活動は、国際ジェンダー学会「開発におけるジェンダー」共同研究、(社)環境生活文化機構理事、(独)国際協力機構 重点課題別支援委員会(開発とジェンダー)委員を歴任。

「あった防災」

問題点 6

極度のストレス状態のためDVが多発した

問題点 7

被災者のニーズの男女別、年齢別等の把握が必要

下着を配る時の配慮だが、実際に必要とされている種類、サイズを調査した上で配布する必要がある。また、配布する際も、女性の下着は女性が配る等の配慮が必要だ。

今回、リップスティックプロジェクトを立ち上げたが、その際、協力企業の女性管理職から、被災者の口紅の色の好みを調べたほうがよいというアドバイスがあったそうだ。

口紅には色の好みがある。被災者にアンケートをとってもらい、希望の色を配ったところ、「生きる勇気をもらった」という多くの声を聞いたそうだ。支援を通じて、勇気をも届けることができた。

問題点 8

公助・自助・共助のバランスをとる

公助

行政も被災者になる。決定機関が被災した時のために、権限の委譲がスムーズに行われるように常時に体制を整えておくこと。

自助

自分、家族の安全は自ら守る。

共助

地域におけるサポート体制。
防災ピア(仲間)・サポート体制の構築

一人の人間に負荷がかからないようにする。地域のリーダーが自分の家より地域のことを考えすぎて、自分の家を顧みることができなくて家族が崩壊した例がある。

公的機関も被災者になってしまう可能性がある。トップダウンで物事を決定する傾向にある公的枠組みの中で災害時に指揮が取れる人がいなくなった場合どうするかが問題だ。平時から、現場の人間が決定できるしくみづくり、決定権の委譲が必要。

防災のマニュアル作りの段階で男女共同参画の視点を盛り込んだモノに策定する必要がある。あらかじめ問題点についてもマニュアルに明記しておけば、災害発生時に混乱は防げる。そのためは、マニュアル作りの段階から女性を参加させる必要がある。

震災が起きてから女性を集めるのでは遅い。現状では、平時における防災会議に女性が参加していない。この段階で女性の参加が不可欠。

Building back the better community

災害の前にあった社会よりも、良い社会を目指して復興しよう、という意味。復興するということは、災害前の元通りの社会に戻るという意味であってはならない。

(川辺 記)

男女共同参画とは何？ なぜ男女共同参加社会ではなく、 参画社会なのか。

参加とは、すでに形となっていることに加わる事。参画とは物事の企画の段階から責任をもって関わる事。男性ばかりの企画では女性の意見が反映しにくい…男性が意識や生き方を変えなければ、女性の参画がなかなか進まない。この視点で防災を考えると、いろいろな事が見えてきます。

今回の講演では、先の震災で被災してプライベートがない避難所で過ごさなければならなかった時、女性にとっては配慮がほしい部分が欠けてしまっている事例や、被災地における安全・安心の確保対策の必要性等、聴きました。女性たちにとって不本意な出来事がこんなにもたくさんある…この事は、日々のテレビや新聞では報道されない部分でした。防災会議や避難所運営等の災害現場に女性の参画が必要な事が切実に伝わってきました。

このことに気付いた時、私たちは何をすべきか…できるだけたくさんの人々にこの事を伝えていきたいし、風化させないことです。

萩原氏が話されていた「東日本大震災女性支援ネットワーク」のホームページを開くとより詳しく男女共同参画と防災の関連性を実感できます。是非、開いてみてください。

そしてこの言葉が印象的でした。

Building back the better community!

人は困難を乗り越える度に新しい発見と知恵が生まれます。今までよりも生きやすい社会に生まれ変わってほしいものです。

(遠藤 記)

家族の絆を見つめ直す

～映画『東京家族』を観て～

東日本大震災の発生からちょうど2年が経過しました。この震災では多くの人たちが大切な家族を失いました。育ててくれた両親、生まれてきてくれた我が子、支え合ったパートナー。被災地以外でも、誰もが大切な人を失う悲しみを、自分自身と置き換えて考えてみたのではないのでしょうか。

失ってから初めてその存在の尊さに気づかされた人は少ないと思います。『日頃からもっと感謝できていたら…。』もし自分の身に同じ悲劇が起きていたら、きっとその後悔しいと思います。でも、実際はなかなか実践できないもの。家族だからこそ照れくさくて口に出せなかったり、時には意見が衝突したり、近すぎるゆえにその存在に煩わしさを感じることもさえます。

この映画では、そんな感情を、穏やかな日常風景の中でありのままに描いていました。シーンごとに自分と重ねてみたり、将来をイメージしてみたり、自然と劇中に溶け込んでいました。

物語は、口数の少ない父と優しい母が、東京に住む3人の子どもたちに会うために小さな島から訪れるシーンで始まります。雑踏の中迎えを待つ老夫婦は携帯電話を扱う姿も頼りなさげで、思わず手を貸したくなりました。もしも老いた両親が離れた小島に暮らしていたら、『携帯電話なんて要らない』と言われても、きっと持つことを勧めるだろうと思いました。

両親を迎えゆっくりしたいと思う長男(開業医)が急患のため診療へ向かうシーンでは、多忙な息子を応援し静かに送り出す両親の大きな愛情が垣間見えました。長女(美容院経営)は、久しぶりに家族揃った夕食が終わると、さらっと帰宅してしまいました。舞台美術の仕事でなんとか生計を立てている次男は、理屈っぽい父に苦手意識を感じていました。そんな次男が、意外にもすれ違う親子の絆をつなぎ止めます。突然母が帰らぬ人となり、一人残された父。次男は恋人と協力し合い父を支えました。なかなか近づくことのできなかつた親子の微妙な距離は、家族の死をきっかけに修復されました。

物語は最初から最後まで意味平凡で、だからこそ共感できる部分が多く、私自身の家族の絆を見つめ直すことができました。きれい事ばかりのドラマではないのに、温かく優しい気持ちになれる、深い味わいの得られる作品でした。これから家庭を持ち家族が増え、いつか自分にも同じ出来事が巡ってきたとき、目に見えない絆を大切にしたいと思いました。

震災により脚本が書き直され、撮影も1年延期されたこの作品を通じて、いつも身近にいてくれる大切な人たちに感謝するとともに、震災で亡くなられた多くの方々のご冥福を心よりお祈りいたします。

(岸田 記)



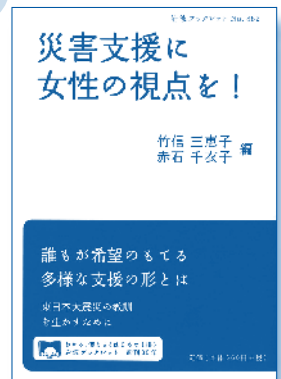
防災を考えたら、こんな本に出会いました

災害支援に女性の視点を!

竹信 三恵子 / 赤石 千衣子 編
2012年 岩波書店

「東日本大震災女性支援ネットワーク」のホームページを開いて、見つけた本です。被災した女性たちの声がたくさん寄せられています。読んでみて胸迫るものがあります。

被災直後の避難所のことや、さまざまな暴力と人権侵害、さらに雇用不安など、次々におこる問題と復興政策に女性の参画がまだまだ不足しています。女性の視点からの避難所マニュアルなども、あらゆる災害時に役立つ内容です。



被災ママ812人が作った 子連れ防災手帖

つながる.com 編
2012年 メディアファクトリー

被災ママ812人が作ったというだけあって、子育て中の方々には、参考になる1冊です。災害時、役に立った防災グッズが紹介されていて、防災用品の見直しに役立ちそうです。女性ならではの防災術あるいは子どもを守る避難術などイラストで解りやすく紹介されていますが、なにより肝心なのは人との繋がりようです。子どもとの避難所生活や仮設住宅あるいは遠くでの暮らしなどの体験談や子育て支援団体の紹介なども掲載されています。

※これらの本は、藤沢市図書館に所蔵されています。

(遠藤 記)

探検! ふじさわ

ママズ カフェ ジョイ 「mama's cafe joy」の巻



テラスモールが一昨年オープン以来、注目の辻堂駅周辺に、子連れにやさしいカフェがあるという情報を聞き、ランチがてら訪ねてみました。

お店は、小さいお子さんとママたちで満席。フローリングに座卓なので、赤ちゃんがお昼寝しても安心です。

メニューは体に優しい野菜が中心で、卵、乳製品や白砂糖を使わないデザートも用意されています。



小さめのおにぎりや味噌汁などの単品メニューもあり、さらに、離乳食用おかゆは10倍～2倍がゆが用意されています。

私がいただいた週替わりランチは、「絹揚げとかぶの柚子味噌のつけ焼き」や、「ちぢみほうれん草とりんごの胡麻和え」と旬の野菜を取り入れたメニュー。真冬の厳しい寒さのなか、ほっこりした気分になれます。

こちらのカフェ、mama's cafe joyの代表は山田綾子さん。2児の母であり、この号が発行するころには3人のママになっているでしょう。大きなお腹で、出産カウントダウンに入っているとは思えないフットワークの軽さで接客していました。

「1人目を出産したとき、息子とくつろげる場所がほしいな、と思ったのがきっかけ」と山田さん。

長年、スポーツインストラクターとして働いていた経験を生かして、出産後にピラティスのインストラクター資格を取得。

「日本では、まだまだママの産後ケアをしてくれるところが少ないと感じていました。

ピラティスは、身体を中心部を鍛える運動で、エアロビクスほど激しい動きでなく、子どもを抱っこしながらでもできるので、産後のケアにぴったりです。」

二人目を妊娠中に事業計画を立て、出産後、商工会議所の起業セミナーなどに参加したり、空き店舗の活用や藤沢市のコミュニティビジネス支援事業補助金が交付されるか産業振興課に相談したりして準備を進めた。

「最初、飲食業に関しては経験したことがなかったので、ピラティスの教室を開きながら、飲み物オンリーで、食事は持ち込みスタイルのカフェで考えていました。しかし、ブログやピラティスのレッスンを通じて、共感してくれた仲間が自然と

集まり、その中にカフェで働いていた人もいて、ならばお野菜たっぷりて体によい食事を提供しようとするスタイルになりました。」

この日ランチに来ていたママ&1歳のお子さん仲間「藤沢市の赤ちゃん教室で出会って以来、毎月集まっています。こういう場所があると助かりますね。」



現在、スタッフは5名。幼稚園教諭の免許を持つスタッフもいることから、週1回「青空体操教室トコトコ」も運営。2歳児から未就園児を午前2時間、お弁当持参で預かり、公園などで季節を感じながら遊ばせています。

三人目を妊娠、ピラティスのレッスン、カフェや青空保育の運営、と多忙な山田さん。仕事、家事と育児を両立しながら、毎日の時間をどう工夫しているのか聞いてみました。

「早起きをするのでしょうか。毎朝4時に起きています。そろそろ3時起きにしないと、と思うくらい(笑)。」

そんな山田さんのパートナーは…

「カフェを始めたいと相談したら、開口一番『絶対なんかやると思った』と(笑)。(夫は)夜は仕事で遅いですが、朝は、子どもの着替えなどの身支度や保育園に送ってくれます。」

苦労した時期は?との質問には、「大変なのは毎日ですが、好きなことを毎日やらせてもらっているのです、つらいと思ったことは一度もありませんでした。」

それは、二人三脚で生きてきたお母様の看病経験からでしょうか。「私の母は癌を患い、余命半年と告知されてから7年生きました。それから私は、今日生きていることが有難いと思うようになりました。せつかく生まれてきたのだから、やりたいことをやりたいです。」

最後に、山田さんの夢は?と尋ねたところ、「同じ敷地に、老人介護施設と保育園とか、お年寄りと子どもが触れ合える場所を作りたいです。そのためには広い土地が必要ですね(笑)。」

(佐野 記)

ママズ カフェ ジョイ
Shop Info: mama's cafe joy

〒251-0047 神奈川県藤沢市辻堂1-9-8 TEL.0466-52-5832
e-mail info@mama-joy.com
【カフェ】11:30~16:00(L.O.15:30) 【レッスン】ホームページ参照
定休日:日・祝日・第1以外の土曜日
ホームページ <http://www.mama-joy.com/toppage.html>

- 学ぶ事、話し合う事、書く事、どれも私にとっては貴重な経験でした。3年間ありがとうございました。(遠藤)
- 風温む鶴沼海岸の波打ち際で広がる景色を見渡した。震災から2年、安心してこの街にずっと住み続けたい。(川辺)
- 2年間にわたりこの情報紙の編集に携わらせていただき、編集関係者や読者のすべての皆様に感謝しています。(岸田)
- 子育てに追われる毎日ですが、新年度こそ? 学びの時間を持とうと思います。(佐野)
- 寒い冬だった。それでも立春が過ぎ、外を見ると、蒔の臺が出ていた。少しずつだが春に向かっている。(大山)

インフォメーション

共生社会推進課からの お知らせ

男女共同参画業務は組織改正により
4月1日から
「**人権男女共同参画課**」で行います。

共に生きるフォーラムふじさわ2013 実行委員の募集

共生社会推進課では、毎年秋(11月頃)に講演会「共に生きるフォーラムふじさわ」を開催しています。
共に生きるフォーラムふじさわは、公募等の市民委員と行政の委員により開催し、今年で24回目を迎えます。
ぜひご応募ください。

- 期：5月下旬から2014年3月31日(予定)
- 対象・人員：市内在住・在勤の方若干名
- 申し込み方法：4月19日(金)までに、任意の用紙に
①住所 ②氏名(フリガナ) ③年齢 ④性別
⑤職業 ⑥電話番号 ⑦応募動機(400字程度)を書いて、郵送(必着)又は持参で。
- 申し込み先：〒251-8601 藤沢市朝日町1番地の1
共生社会推進課
(4月1日から人権男女共同参画課)
TEL 0466-25-1111(代表)

かがやけ地球は、市民の編集員さんの企画・運営によって
年4回発行しています。

編集員：遠藤 倫子・川辺 裕子・岸田 弥生・佐野 美穂子・大山 賢一

湘南が好き 地球が大好き



ふれあいのひろば

フジサワ名店ビル

☎0120-111-391

<http://www.fujisawa-meiten.com>

ドメスティック・バイオレンス(DV)相談窓口のご案内

一人で悩まずに、まず、お電話を！ 相談はいつでも無料です。秘密は守られます。

藤沢市の相談窓口

相談機関	電話番号	相談日・相談時間(休・祝日、年末年始を除く)
福祉事務所 (婦人相談員)	0466-25-1111 (内線) 3261	月～金曜日 8:30～12:00/13:00～17:00
福祉保健総合 相談室	0466-25-1111 (内線) 3250	月～金曜日 8:30～17:00
人権相談 (人権擁護委員)	0466-25-1111 (内線) 2132	金曜日 13:00～16:00

神奈川県相談窓口

相談機関	電話番号	相談日・相談時間(年末年始・休館日を除く)
かながわ県民 センター窓口	045-313-0745 045-313-0807	月～金曜日(祝日の金曜日は休み) 9:00～21:00(面接相談17:00まで)
かながわ女性 センター窓口	0466-27-9799 (面接相談要予約)	火～日曜日 9:00～12:00/13:00～17:00 (木曜日12:00まで・祝日の火～木曜日は休み)
多言語による相談 (英語、中国語、韓国・朝鮮語、 スペイン語、ポルトガル語、 タガログ語、タイ語)	050-1501-2803 (面接相談要予約)	月～土曜日 10:00～17:00 (面接相談16:00まで)
男性被害者相談	045-313-0745 (面接相談要予約)	月～金曜日(祝日の金曜日は休み) 9:00～21:00 (面接相談は毎月第2・4日曜日の13:00～16:30)
女性への暴力相談 “週末ホットライン”	045-451-0740	土・日及び祝日の金曜日 17:00～21:00

その他の機関

相談機関	電話番号	相談日・相談時間
横浜地方法務局 “女性の人権ホットライン”	045-212-4364 0570-070-810	月～金曜日 8:30～17:15

県警察本部 *緊急時(事件発生時)は110番

相談機関	電話番号	相談日・相談時間
警察総合相談	045-664-9110 又は#9110	24時間 (来所相談は月～金曜日 8:30～17:15 祝・休日、年末年始は除く)
女性・子どものための相談 (ストーカー・DV被害等)	045-651-4473	月～金曜日の8:30～17:15 (祝・休日、年末年始は除く)
性犯罪被害110番	045-681-0110	※電話相談のみ

一般社団法人神奈川人権センター

相談機関	電話番号	相談日・相談時間
DVIに悩む男性の ための電話相談	045-758-0918	毎週月曜日(祝日実施、年末年始は休み) 11:00～16:00 ※男性のDV被害者も、加害者も対象です。 ※電話相談のみ。

古書・アウトレット本買取と販売

買取 ご不要なもの、お売りください。※一部、買取れない品もあります。
(買取品目)書籍・CD・DVD・ゲームソフトなど
お売りいただく際は身分証明書のご提示をお願いいたします。
アウトレット本と古書の販売 発売後、読者の手に渡らず出版社に在庫されていた未読の本(アウトレット本)を
旧定価の20～80%OFFで販売します。他に珍品や稀少本など古書も扱っています。
詳しくは下記ホームページで

藤沢駅(南口)前・有隣堂藤沢店5階
リブックス藤沢店 (ReBOOKS) **有隣堂**
☎0466 26 1411(有隣堂藤沢店代表番号) ●ホームページ <http://www.yurindo.co.jp/>

藤沢・茅ヶ崎・寒川 “湘南”がエリアのFM放送局



<http://www.radioshonan.co.jp>

STUDIO FAX No.0466-29-2121